

高専生の専門英語力 UP および国際性涵養のための国際交流事業の活用

Improvement of Technical English and International Perspectives on Kosen-Students Collaborating with Short Term International Exchange Students

○柳生 義人、西口 廣志、石貫 文子、原口 和子、東田 賢二（佐世保高専）

○Y.Yagy, H.Nishiguchi, F.Ishinuki, K.Haraguchi, K.Higashida (NIT, Sasebo College)

E-mail: yyagy@sasebo.ac.jp

1. はじめに

佐世保高専（以下、本校）では「ものづくり」のあり方が大きく変わりゆく変革の時代を担う高専生達に対し、次世代のエンジニア人材を育成するべく、高専教育の更なる深化を目指している。その一環として、本科 4 年生を対象に知識活用教育(知活)という先駆的な授業科目を開講しており、その一つに専門英語による実践的コミュニケーション能力の習得を目標とした「国際技術者コミュニケーションコース」を設けている。本コースでは、専門英語を用いた実践的な英会話能力の習得を目標とし、外国人講師とのフリートーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を行うとともに、海外からの短期留学生や米海軍佐世保基地の小中高校生との交流を通じて専門英語を用いた実践的な英語交流に力を入れている(図 1)。本稿では、高専生の専門英語力 UP に向けた導入教育の一環として、国際交流での取り組みを紹介するとともに受講者を対象として行ったアンケート結果について報告する。

2. 本取り組みの方法

佐世保高専に短期留学生として来校した中国厦門理工学院およびシンガポール・ポリテクニックの学生に対して、専門英語力 UP に向けた導入教育の一環として、一般的なテーマで英語によるポスタープレゼンテーションを行った。本校の学生は 1 グループあたり 3~4 名とし、1 対 1 の会話の機会を増やし、コミュニケーションをとるきっかけを作った。ポスターには、文章を記載することを極力禁じることで、自分の言葉での会話を促した。事前に担当教員(本校教員および外国人講師)による添削やリハーサルを行い完成度を高め、当日に円滑に説明できるよう準備した。

3. アンケート結果

本取り組みに参加した学生を対象に交流前後の英語に対する意識の変化を調査した(抜粋 図 1)。交流前と比較して交流後には、Q.1 海外留学や就職に対する意欲が向上し、Q.2 英語の勉強が好きと回答した学生の割合が増加する傾向を示した。

また、コメントには、「練習や本番を通じて英語力の向上を実感した」、「アイコンタクトをしながら楽しく会話することが大事」などの意見があり、学生自身が英語について振り返り今後活かす姿勢が見受けられた。

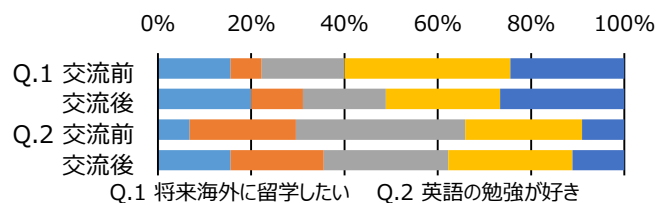


図1. アンケート結果

n=45

謝辞 本取り組み(知識活用教育 国際技術者コミュニケーションコース)の実施にあたり、佐世保高専の先生方および外国人講師の皆様に多大なご協力を頂きました。ここに記し御礼申し上げます。